

令和6年度
事業報告

社 会 福 祉 法 人 天 光 会
み ど り が 丘 保 育 園

【5歳児】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 定員 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 |
| 現員 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 |
| 在園率 | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |

園児数合計

| 0歳児 | 1歳児 2歳児 | 3歳児 | 4歳児 5歳児 | 計 |
|-----|------------|-----|------------|------|
| 15名 | 54名 | 34名 | 68名 | 171名 |

職員配置

| | 0歳児 | 1歳児 | 2歳児 | 3歳児 | 4歳児 | 5歳児 | 子育て | 一時保育 | フリー |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 保育士 | 5名 | 5名 | 6名 | 4名 | 2名 | 2名 | 1名 | 2名 | 3名 |
| 保育補助 | | | | | | | | | 1名 |

| 栄養士 | 看護師 | 調理師 | 調理補助 | 事務 | 用務 | 育休 |
|-----|-----|-----|------|----|----|----|
| 1名 | 1名 | 2名 | 2名 | 1名 | 0名 | 4名 |

各種会議

| 開催日 | 会議名 | 内容 |
|-------|--------|------------------------|
| 毎月1回 | 月案会議 | 翌月の保育計画 個人目標 その他特記事項共有 |
| 第1水曜日 | 給食会議 | 嗜好調査、食育情報共有 |
| 第2水曜日 | 防災会議 | 避難訓練反省 ヒヤリハット 事故防止 |
| 毎月2回 | チーフ会議 | 運営ミーティング 緊急事項対策会議 |
| 毎月1回 | リーダー会議 | クラス運営ミーティング 課題対策会議 |
| 毎月1回 | クラス会議 | 各クラス保育計画 問題事項対策会議 |

園内研修

| 開催月 | 題材 | 内容 |
|-----|----------------|-----------------------|
| 5月 | 事故防止 | ヒヤリハットの見直し 園内の危険個所の確認 |
| 6月 | 研修報告・AED | AEDの使い方 心肺蘇生 緊急事態時の対応 |
| 7月 | 保護者支援 子育て支援 | 保護者対応 グループディスカッション |
| 8月 | 研修報告 保育内容研修 | ・見直そう保育現場のなぞルール |

| | | |
|-----|--------------------------|--|
| | 保育内容実務研修 | ・子どもと楽しく遊べる科学工作 |
| 9月 | 乳幼児保育 | 自然環境保育の取り組み(途中経過報告) |
| 10月 | 嘔吐処理 | 嘔吐処理の実践 |
| 11月 | 研修報告 体育実技研修 給食内容研修 | ・誰もが楽しめる運動遊び 運動遊びのすすめ ・人生を豊かにするための食事とは |
| 12月 | 虐待予防 | 不適切保育 ロールプレイ |
| 1月 | 障害児保育 | 平等と公平の違い 感覚障害児への理解 ロールプレイ |
| 2月 | 乳幼児保育 | 千葉県自然環境保育認定制度への半年間の取り組みの報告 乳児期に取り組む自然環境保育 |

園外研修

| | | |
|-----|------------------------|---|
| 5月 | 準職員研修 | 不適切保育について |
| 5月 | 保育内容実技研修会 | 普通救命講習会 |
| 6月 | 保育内容研修会 | 見直そう保育現場のなぞルール |
| 6月 | 児童福祉施設における 防災の備え | 大災害時に役立つ児童のための防災の備え |
| 6月 | 保育内容実務研修 | 子どもと楽しく遊べる科学工作 |
| 7月 | 初級保育士研修会 | わらべうたに触れよう |
| 7月 | 主任保育士研修会 | 新入保育者育成法 保育士の質の向上と組織マネジメント |
| 7月 | 保育所長研修会 | 保育士が長く働きたいと思える保育所にするために |
| 8月 | 主任保育士研修会 | 不適切保育について |
| 8月 | 中堅保育士研修会 | 保育現場の事例から子どもの人権を考える |
| 8月 | 施設長研修会 | 園で取り組む人材育成 |
| 9月 | 体育実技研修会 | 運動遊びのすすめ |
| 10月 | わらべうたと保育 | わらべうたに触れよう |
| 10月 | 病児・病後児保育に関する 研修会 | 体調不良の時の保護者コミュニケーション 子どもが体調不良の際の配慮と受け入れ |
| 10月 | 給食内容研修 | 子ども達の未来を守るために自分の健康に気付こう |
| 10月 | 子育て支援事業担当者会議 | 子育て支援 保護者が求めている支障とは |
| 10月 | 自然環境保育 安全管理研修 | リスク発見3つの視点 安全管理マニュアルと安全計画の作成 |
| 10月 | 配慮が必要な子に 関する研修会 | 個性に寄り添う支援 子どもの理解につながる親と保育者のよりよいコミュニケーション |
| 11月 | 保育特別講座 | 自然保育が必要なわけ 自然環境保育実践発表 |
| 11月 | 保育士・保育教諭懇談会 | 子どもへの性暴力防止の視点から考える保育の専門性 |
| 11月 | 給食実技研修会 | 災害時調理 |
| 12月 | 千葉県保育協議会 食育推進担当者研修会 | 子どもの主体性を育む保育の中の食育 |

※6月～12月 キャリアアップ研修(幼児教育 乳児保育 障害児保育 保護者支援 子育て支援 食育・アレルギー マネジメント) 8名受講

- ・ 本園のキャリアアップ研修の未受講率が低くなってきたこともあり、今年度は今取り組んでいる保育やこれからやってみたいと思う保育に関連した研修も積極的に受講していった。職員が興味を持つものが中心だったこともあり、より身近な研修内容に自分達の保育を振り返りながらこれから実践につなげていきたいと意欲を見せる様子が強かった。

運動遊びやわらべ歌、自然保育や保育現場のなぞルールの見直しといった内容が特に職員らには興味を強く引き立てられるものであり、研修報告でも報告を受ける職員達も反応がよかった。

- ・今年度の園内研修はキャリアアップ研修の専門分野に合わせて専門リーダーを配置し、研修を作っていた。乳児保育、幼児教育、障害児保育、保護者支援・子育て支援、4つの分野に加えて事故防止、虐待予防、嘔吐処理法に関しても取り組んできた。
昨年度も一方的な研修ではなく、一人ひとりが参加していくディスカッションを中心にしていったが、今年度はロールプレイ方式を取り入れた。そうすることで実際会話をしながらや、体を動かしながらすることでわかりやすく、それぞれの心境や感情が実感したり想像する事がスムーズであった。ただ、慣れない形式に羞恥心や戸惑いを見せる場面も多々見られたので、経験値を高く、ロールプレイの効果をより発揮できる研修様式にしていく。また、引き続きディスカッションを積極的に持ち、その中でファシリテーターの役割を身につけられるようにする事も今後の課題である。

組織体制

- ・各クラスでのミーティングでは保育室ではなく、会議室で行うことを徹底した。また、議題や課題を事前にクラス間で共有することで会議の効率化を目指していった。問題点、改善点の把握から実行改善までを迅速に対応。また、ミーティングにおいては、翌月の保育計画を中心に子どもの個々の発達状況に合わせ、活動の目的や意図を明確にした保育の組み立てに取り組んでいった。
- ・他部署間の報・連・相の徹底。
- ・働きやすい職場環境の実現に向けて積極的なICTの促進に努め業務の効率化を計画的に進めていく。(進行中)
- ・園児・職員の健康状態を組織的に把握し、感染症への迅速な対応を心掛け、他機関との連携が円滑に進むよう努力した。また、市内にある他園の看護師とのミーティングの場を設け、地域の感染症対策や保育園での保健活動の情報交換をおこない、地域との協力体制をとっていった。月1回市内私立保育園の感染症状況の情報提供を促し、集計をすることで感染症の動向を把握し、保健活動に役立てていった。加え、他園の保護者や職員に向けて保健情報をまとめたお便りを毎月発行し支援活動に参加した。
- ・各分野別リーダーの年間目標を明確化することでサブリーダー、その他職員が共通理解を図り業務分担が適切に行えた。
- ・チーフ間の連携強化を図るため、月2回のチーフ会議を設けた。意見交換を密にすることで課題や指導が具体化し、問題解決に努めた。
- ・各委員会のリーダーが委員会やミーティングを通して参加者の中心となりリーダーシップを図り、専門知識の向上に努めた。

年間行事

| 日程 | 行事名 | 内容 |
|--------|--------|----------------------------|
| 4月1日 | 入園のお祝い | 各クラス分かれてのクラス説明会。 |
| 4月19日～ | 懇談会 | 各クラス遊戯室にて 保護者自己紹介 園からのお願い等 |

| | | |
|---------------|--------------|---|
| 5月29日～ | 春の保育参観 | 各クラスフリー参加形式 1日2～3名限定 |
| 5月上旬～ | 春の遠足 | 3・4・5歳児対象 バス遠足・公園遠足等 |
| 5月下旬～ | 個人面談 | 各クラス保護者との面談 |
| 5月28日 6月4日 | 歯みがき教室 | 3・4・5歳児対象 健康増進活動 |
| 6月下旬 | 内科・歯科健診 | 前期 |
| 6月27日 | プール開き | 幼児クラスは大型プールを設置。熱中症警戒アラート発動時は中止。 |
| 9月5日 | 引き渡し訓練 | 大型地震想定 保護者引き渡し |
| 9月12日 | 交通安全教室 | 3・4・5歳児対象 交通安全促進活動 |
| 10月15日 | 運動会 | 幼児クラス(3・4・5歳児)⇒大網小学校にて開催 保護者一家族2名制限 |
| 10月23日～ | 秋の保育参観 | 各クラス参加形式 1家庭1名の保護者参加 |
| 11月上旬～ | 秋の遠足 | 3・4・5歳児対象 芋ほり・公園バス遠足等 |
| 11月下旬 | 内科検診・歯科検診 | 後期 |
| 11月19日 | チーバくん | |
| 12月20日 | 発表会(3・4・5歳児) | 1日一クラスの発表会。保護者各家庭2名参加。 |
| 2月中旬 | 歯みがき教室 | 健康増進活動 |
| 2月28日 | 卒園遠足(5歳児) | 千葉市動物公園 |
| 2月下旬 | 新入园児説明会 | 新入园児保護者対象 |
| 3月12日 | お別れ会 | 5歳児にお礼の言葉や歌のプレゼントを渡す。 職員によるオペレッタ |
| 3月19日 | 卒園式 | 卒園証書授与。 会場は遊戯室。保護者1家族2名参加可。 式後は謝恩会を行った。 |

- ・ 季節の行事では、クラス毎年齢に合った時間・内容を考え子ども達が無理のないよう楽しめるものを考え行っていた。クラス毎で行う行事もあれば職員が出し物を披露する形式があったり、異年齢交流も踏まえた行事の形にするものだったりとして試行錯誤しながら進めた。
- ・ 幼児の運動会は大網小学校を借りて行った。1家庭につき2名までの保護者参加可能。スペースも余裕があり、子ども達ものびのびとした様子で行っていた。しかし、例年通りの10月中旬の開催であったが、残暑が抜けず熱中症警戒アラートは出なかったものの、かなり近い指数は出ており暑さ対策にも限界を感じた。当日を迎えるまでの練習期間はより気温は高く、猛暑となる日も少なくなかった。来年度の開催時期をずらし対策をとる。
- ・ 幼児クラス同様、乳児クラスも年に2回の保育参観を設けた。昨年度までは秋頃に0, 1, 2歳児それぞれ園庭にて運動会を行っていたが、運動遊びだけでなく室内遊び、リズム遊び、製作、食育活動など日々の保育に親子で参加し春の保育参観から成長した姿を見てもらう事を目的として取り組んだ。
- ・ 発表会は、時間差をつけながら1日の中で3, 4, 5歳児のプログラムを構成していった。一家庭保護者2名の参加可能形式をとった。兄弟児が多い当園でもあるため、保護者の都合がつきやすいようクラス毎に日を設ける日程を見直した。グループに分けた演目とクラス一丸となって披露する演目を用意し開催した。クラスごとに子ども達と内容を決め、歌やダンス、劇などを発表する。友達同

士話し合いの場を設け、意見し合い、辛い時は励まし合い、ひとつの目標に向けて協力し合うなど、子ども達の共生力を発表会という行事を通して育んでいく。

- ・ 卒園式は、会場は遊戯室、保護者各家庭2名参加可能形式。平日の通常保育の中での式であった。式後は謝恩会を行った。当日は年長クラス34名全員出席し卒園証書授与式を行った。
- ・ 実物を目にし、触れる喜びを感じてもらえるよう、芋ほり実体験や本物のこいのぼり、雛人形などを園内に展示した。

新人教育

新卒者4名

- ・ 新入社員オリエンテーション・新人正規職員メンター配置(保育士ノート記録 所見 指導)
- ・ 面談

新卒者向けのオリエンテーションを試みたが、保育中では中々伝えられない内容を集中的に座学として学べる機会を与えられたことは良い結果だったと思う。昨年度同様、法人が統一で行う内容1日と、園で行う内容を2日と計3日に分けて行った。時間的には余裕が持てたのではないかと思う。

実習受け入れ

- ・ 千葉経済短期大学 2名 保育実習Ⅱ 6月3日～6月14日(10日間)
- ・ 帝京科学大学 1名 保育実習Ⅱ 8月19日～8月31日(10日間)
- ・ 植草学園大学 1名 保育実習Ⅰ 8月19日～8月30日(10日間)
- ・ 千葉明德短期大学 1名 保育実習Ⅱ 8月22日～9月4日(11日間)
- ・ 千葉敬愛短期大学 1名 保育実習Ⅱ 8月22日～9月4日(12日間)
- ・ 目白大学 1名 保育実習Ⅰ 8月26日～9月7日(12日間)
- ・ 千葉明德短期大学 1名 保育実習Ⅰ 1月20日～2月1日(11日間)
- ・ 敬愛短期大学 1名 保育実習Ⅰ 1月30日～2月13日(12日間)
- ・ 目白大学 2名 保育実習Ⅰ 1月30日～2月13日
- ・ 東海大学 1名 インターンシップ 8月26日～8月27日
- ・ 千葉明德短期大学 1名 乳児保育体験 9月20日

今年度も積極的に実習生の受け入れを行うことができた。

ボランティア受入・職場体験・町探検

(ボランティア受け入れ)

期間、受け入れ人数は以下の通り。

- ・ 夏季【7、8月】 小学生37名、中学生5名、高校生、1名、大人2名 計45名
- ・ 春季【3月】 高校生2名 計2名
- ・ 他 短期大学生 計1名

小学生は午前中のみ(但し、職員の子どもや中学生以上の兄弟が同日にボランティアを行う場合は午後2時まで参加可)。中学生以上は午後以降も参加可能として行った。昨年度参加した子ども達が今年度も参加を希望する声も多くおり、また、卒園児や、職員の子ども以外に、地域の子ども達も参加していただけたので、地域交流を行うことが出来た。今後は、保育士希望の高校生以上

の学生にも多く参加してもらい、将来の人員確保につなげていきたい。

(職場体験)

令和6年度なし

(町探検)

令和6年度 大網小学校2年生17名が来園。保育園見学や子ども達の様子、各年齢の遊び等を紹介した。

業務委託

| 日程 | 内容 | 委託先 |
|--|--------|------------------------|
| 6月11日 11月26日 | 内科検診 | 千葉東こどもクリニック(松崎 真由美 先生) |
| 6月20日 11月21日 | 歯科検診 | 伊藤歯科医院(伊藤 喜清 先生) |
| 5月28日 6月4日 2月14日 2月18日 2月19日 | 歯みがき教室 | 大網白里市健康増進課歯科衛生士 |
| 9月12日 | 交通安全教室 | 東金警察署 |
| 11月19日 | チーバくん | バードアイ |

苦情報告

① (内容)

・園行事について 夏祭りがなくなったのはなぜか？コロナ5類になったのに夏祭りから夏祭りごっこになったのはなぜか？

(対応)

・子どもの主体性を育むと同時に職員も主体性を持って保育を組み立てる事を指導している。行事の為に取り組むのではなく、日々の保育の充実として季節に触れながら子ども達が発信した事を中心に発展させるため、年間行事予定からは外した旨を伝える。また、今年度実際行った夏祭りごっこの様子も伝える。

② (内容)

・兄弟児の送迎の順番について

兄弟児がいる場合、乳児から迎えに行き最後に幼児を迎えに行くシステムでは上の子を受け渡しの際下の子が見切れず危険が生じるため幼児から迎えに行きたい。

(対応)

・園が指定した送迎順の意図は伝えつつ、子どもの様子も踏まえ臨機応変に対応した。

③ (内容)

・保育士の保護者対応について

行事の際保護者の不備があったときの伝え方が一方的でできなかった。

(対応)

- ・謝罪をし、改めて資料などを用いながら説明し承諾していただいた。

④ (内容)

- ・運動会のお土産が絵本になり、こちらが候補にあげた絵本の中から保護者が選び購入するという形式に納得がいかなかった。

(対応)

- ・新しく取り入れた事への説明が不足していた事を謝罪した。昨年度の月間絵本の購入を廃止した(一斉保育をしないため)事や、絵本に触れる事は大事にしていきたい事、親子で絵本に触れる機会を設ける事が子どもにとってどんな影響があるかを伝えた上で、改めてご協力をいただきたいと伝えた。

⑤ (内容)

- ・子どもが保育士(特定の)の事を怖いと言っている。また、言葉使いがきつく感じる事もある。

(対応)

- ・謝罪をし、個人に向けてや、全体に向けて子どもとの関わりや言葉かけに対しての指導をしていく旨を伝えた。その後個人には面談を、全体には会議や園内研修にて指導を行いリーダーに定期的に様子を聞く対応をした。

つぼみ組(0歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・子どもの気持ちや欲求を丁寧に受け止めていく。
- ・感覚器官を発達させ、様々な遊びを通し、感性を育てる。
- ・保育者との関りや遊びの中で、楽しさを感じられるように共感していく。

クラス目標

- ・人への基本的信頼関係を育めるよう、温かみのある触れ合いやゆったりとした関わりを大切にしていく。
- ・一人ひとりの子どもの発達を理解し、個々に合わせた保育を行う。
- ・社会人としての意識を持ち、共に学び、保育士としての知識を深める。

活動報告

○室内遊び

- ・音の鳴る玩具 ・ままごと ・ブロック ・お絵描き ・シール ・絵本 ・パズル
- ・ポットン落とし 等

○戸外遊び

- ・固定遊具 ・砂遊び ・ボール ・かけっこ 等

○その他

- ・感触遊び(絵の具、小麦粉粘土) ・巧技台 ・水遊び ・散歩 等

〈行事〉

- ・保育参観 ・夏まつり ・親子ふれあい運動会 ・消防訓練
- ・クリスマス ・節分 ・ひな祭り ・身体測定 ・避難訓練 ・内科検診 ・歯科検診 等

反省

- ・担任が途中で変わったが、保育内容や子どもたちへの接し方などについて話し合い、連携を取り

ながら進めることができた。愛着関係を築けるように、一人ひとりに寄り添い、応答的な関わりを心掛け、育ちに合った援助をすることができた。

- ・自然との触れ合いを通して、五感を使って感じる遊びや活動を取り入れていくよう、職員間で連携することができた。
- ・一年間で成長著しい子どもたちへの対応や関わりを、職員間で情報を共有しながら保育を行ったので、子どもたちとの信頼関係が築けた。

わかば組・ふたば組(1歳児クラス)事業報告

基本方針

意欲の高まりを大切に、やってみたいという気持ちを育てる
自己主張を受け止め個性を大切にする
さまざまな遊びを通して、見る聞く触れる等の楽しさが感じられるようにする

クラス目標

安心安全な環境のもと、自我の芽生えに寄り添う
簡単な身の回りの事に興味関心を持ちできることは自分でしようとする気持ちを育む
社会人として、保育者としての意識を持ち、子どもたちや保護者、職員へ適切な関わりを心がける

活動報告

○室内遊び

ままごと、パズル、積み木、お絵描き、電車、車、ボール、人形等

○戸外遊び

固定遊具(滑り台、アスレチック、三角山)、ボール、砂場、ままごと、虫探し、草花遊び等

○その他

自然物遊び、感触遊び、散歩、触れ合い遊び・食育遊び等

〈行事〉

- ・子どもの日 ・保育参観 ・夏まつり ・親子ふれあい運動会 ・クリスマス・お正月
- ・節分 ・ひな祭り ・避難訓練・誕生日会 ・身体測定 ・避難訓練 ・内科検診
- ・歯科検診等

反省

- ・家庭との連携を密にしたり職員間で子どもの様子について話し共有したりしたことで、子ども達それぞれがその子らしさをのびのび表現しながら園生活を送ることができた。
- ・1歳児2クラスが多くの時間をいっしょに過ごすことで、子ども同士のかかわりや遊びの幅は広がっていた。
- ・子ども達の「自分でやりたい」という思いを大切にしながら、一人ひとりに合った声かけや手助けを心がけたところ、簡単な身の回りのことに進んで取り組む姿が見られるようになった。

ちゅうりっぷ組(2歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・自分のことは自分でしようという気持ちを育てる。
- ・言葉で伝えたり、言葉でやり取りしたりしながら、語彙を増やす。
- ・自然との触れ合いを通して好奇心を持ち、指先、手先、全身を使い楽しく育む。

クラス目標

- ・安心して表現したり、意欲を持ったりできるような関係、環境作りをする。

- ・子どもの遊びや興味関心を広げたり深めたりする。
- ・保護者だけでなく職員間でも信頼関係を築き、共に子どもの育ちを考えられるようにする。

活動報告

○室内遊び

- ・ままごと ・ブロック ・お絵描き ・シール ・絵本 ・プラレール ・ミニカー ・パズル ・粘土 等

○戸外遊び

- ・虫探し ・草花で遊ぶ ・固定遊具 ・砂遊び ・スクーター ・三輪車 ・フープ ・ボール ・かけっこ ・おにごっこ 等

○その他

- ・自然物で遊ぶ(草花・木の実・小石・虫探し 等) 等
- ・絵の具 ・小麦粉粘土 ・巧技台 ・水遊び ・散歩 等

反省

- ・小グループでの活動を行ったことで、子ども一人ひとりの思いを受け止めながら丁寧に関わることができた。身の回りの事だけではなく、自分でしてみようという姿が多く見られた。環境の工夫、保育者と余裕を持った関わりが良かったと思える。
- ・自然環境保育を意識し、季節を通して散歩に行ったり、自然物を持ち帰り製作を楽しんだりすることができた。保育参観やおたよりを通じて保護者への自然環境保育への共有や理解をアピールすることもできた。
- ・クラス会議や日々職員間での話し合いをした事で共通理解を図り、保育を行なえた。職員間で発言しやすい雰囲気が良かった。

幼児組(3・4・5 歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・いろいろな事に『やってみよう』と挑戦する気持ちを大切にすること。
- ・一人ひとりの個性特徴を尊重し、思いを汲み取り認め、自己肯定感がもてるようにすること。
- ・基本的な生活習慣を身につけ、生き生きと生活すること。
- ・人との関わりの中で、社会における必要な習慣や態度を身につけ、思いやりの気持ちを育てること。
- ・興味を持って自然と関わり、主体的に行動する力を育てること。

クラス目標

- ・職員と連携を取りながら『生きる力』を考えること。
- ・10の姿を意識し、子ども一人ひとりの発達に応じた関わりをしていくこと。
- ・保護者と職員、又職員同士の連携・協力・理解を図り、子ども達の成長の喜びを共有しつつ相互の信頼関係を築くこと。

活動報告

○室内遊び

- ・ままごと ・ブロック ・粘土 ・パズル ・絵本 ・お絵描き ・ぬりえ ・製作 等

○戸外遊び

- ・散歩
- ・固定遊具 ・砂遊び ・三輪車 ・スクーター ・ボール ・鬼ごっこ・虫探し 等

○その他

- ・自然物を使って遊ぶ(草花・木の実・小石 等)
- ・栽培・絵の具・水遊び・運動遊び(巧技台・バランスストーン・跳び箱・鉄棒)等

○行事

- ・遠足・保育参加・夏まつり・運動会・消防訓練・発表会・食育活動
- ・クリスマス ・節分 ・ひな祭り ・身体測定 ・避難訓練 ・内科検診 ・歯科検診

反省

- ・自然環境保育の認定を受け、今年度も幼児組全体で自然遊びや環境設定等、年間を通して意識し保育することができた。
- ・各クラス子どもの成長を話し合いながら保育をし、幼児組間で声かけ合いながら、日々の保育をしたり、幼児体操を取り入れたりと協力して保育をすることができた。
- ・保護者との信頼関係は担任以外の職員に相談することもあり、協力しながら、共に子ども達の成長を喜び合うことができた。

「特別保育」事業報告

事業方針

- ・ 地域の子育て家庭の心の拠り所になるような場所や情報を提供することで、子育て支援・児童福祉の目的を図る。

事業目標

- ・子育て家庭の気持ちに寄り添い、親子が安心して過ごせる関係・環境作りをする。
- ・専門職としての意識や知識を高め、家庭での子育ての実践につながるようにその家庭に応じた支援をしていく。
- ・ポジティブアプローチを心掛け、子どもや保護者・職員・地域の方との信頼関係を築く。

子育て支援センター

実績報告

- ・6月、2月に市内の子育て支援センターとの交流会を通して情報交換や意見交換を行った
- ・6月の千葉県子育て支援事業担当者会議研修会では市川市の子育て支援センターを視察し、他施設と情報交換や意見交換を行い、学びを深めることができた。
- ・6月には市の歯科衛生士を招いて地域の親子に歯科指導を行った。
- ・10月の山武支会子育て事業担当者研修会では、山武市内の他施設との情報交換・活動報告を行い、つくしんぼくらの活動を広く知ってもらうことができた。
- ・12月から公式ラインを導入し、LINEで予約やキャンセルができるようになった。
また、こちらからの積極的な情報発信もできるようになった。

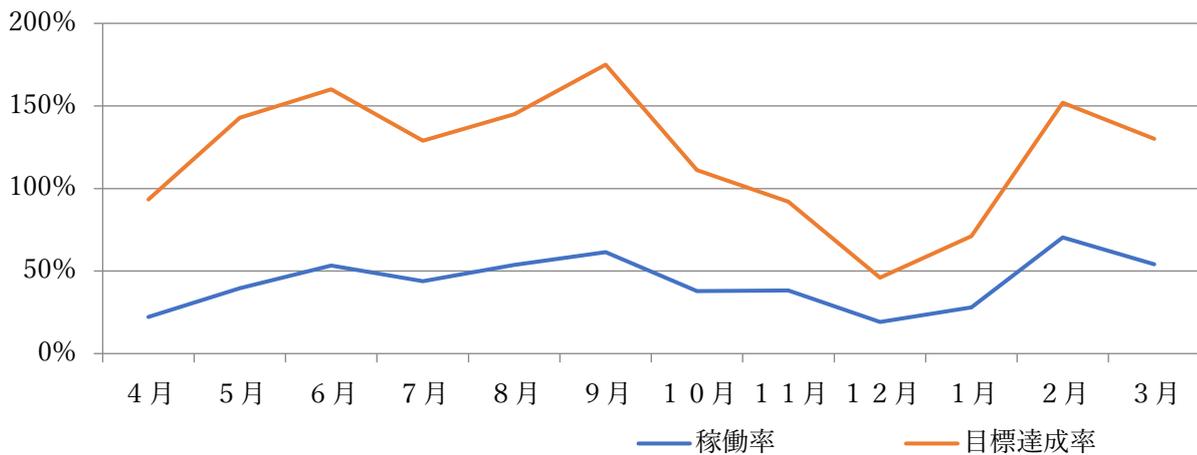
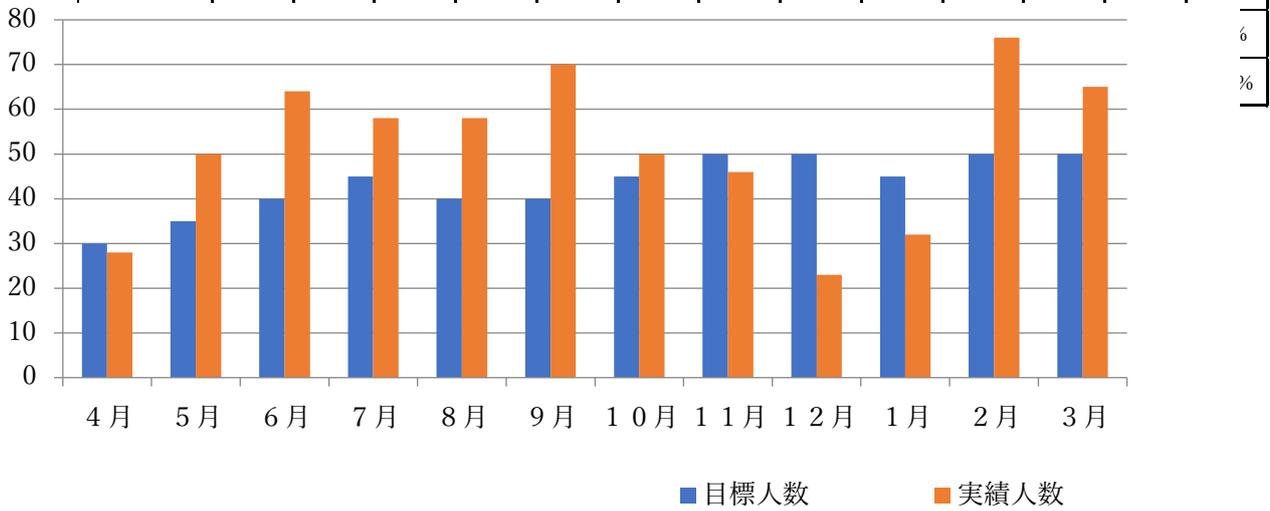
反省

- ・毎月ベビーマッサージを開催することで、市外からも新規利用者が増え利用人数も伸びた。
- ・たまごタイムひよこタイムを月に一回ずつ開催し、毎月子どもの成長を知ることができる身体測定と手形足形製作を行うことで、固定利用者がついた。
- ・地域のお店を知ってもらったり日々の子育てを労う場として「つくしんぼカフェテリア」を企画し、今年

度の利用者がほぼ全員参加し大盛況となった。
 ・公式ラインの導入で予約やキャンセルが時間を問わず出来るようになり、電話での予約やキャンセルが激減
 したことで、業務の円滑化に繋がった。

令和6年度 子育て支援センター年間稼働計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 目標人数 | 30 | 35 | 40 | 45 | 40 | 40 | 45 | 50 | 50 | 45 | 50 | 50 | 520 |
| 稼働日数(日) | 21 | 21 | 20 | 22 | 18 | 19 | 22 | 20 | 20 | 19 | 18 | 20 | 240 |
| 定員(人) | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 実績人数 | 28 | 50 | 64 | 58 | 58 | 70 | 50 | 46 | 23 | 32 | 76 | 65 | 620 |



一時保育

実績報告

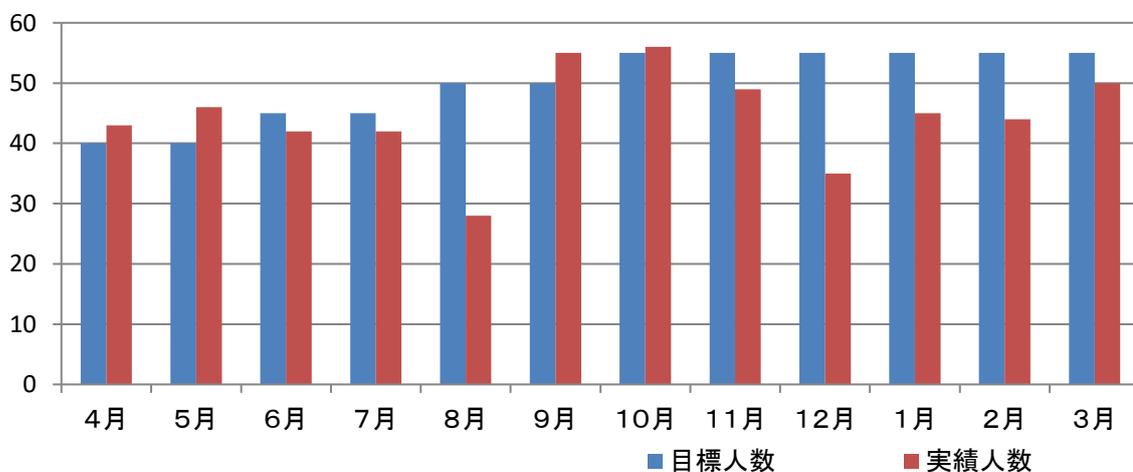
- ・子育て支援センターの利用者に声を掛け、短時間でもリフレッシュ目的でも利用できることを伝えた。
- ・在園クラスに入って一緒に過ごす機会を設け、子ども同士の交流を図った。
- ・長時間保護者から離れることによって心身への負担がかかることがあるため、無理なく1日を過ごせるよう配慮して関わった。
- ・子育て支援センターのイベントと一緒に参加し、遊びを共有した

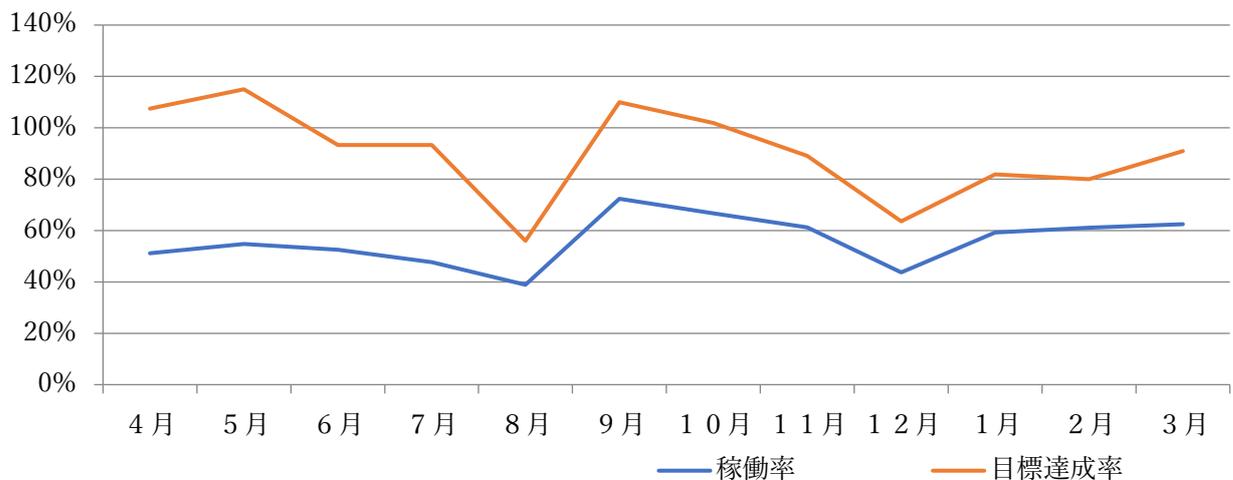
反省

- ・年度初めは職員が2名体制だったが夏には3名となり、病後児担当職員も含め特別保育の職員間で連携し運営することができた。
- ・一時保育と子育て支援センターの職員が同じであったため、両方の利用者に声を掛け、気兼ねなく利用してもらえるよう工夫した。
- ・育児疲れによるSOSの問い合わせが数件あり、対応し利用に繋げた。

令和6年度 一時保育年間稼働計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---------|------|------|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 目標人数 | 40 | 40 | 45 | 45 | 50 | 50 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 600 |
| 稼働日数(日) | 21 | 21 | 20 | 22 | 18 | 19 | 21 | 20 | 20 | 19 | 18 | 20 | 239 |
| 定員(人) | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 実績人数 | 43 | 46 | 42 | 42 | 28 | 55 | 56 | 49 | 35 | 45 | 44 | 50 | 535 |
| 稼働率 | 51% | 55% | 53% | 48% | 39% | 72% | 67% | 61% | 44% | 59% | 61% | 63% | 56% |
| 目標達成率 | 108% | 115% | 93% | 93% | 56% | 110% | 102% | 89% | 64% | 82% | 80% | 91% | 89% |





病後児保育

実績報告

- ・送迎時や連絡帳で個々の体調の情報共有を保護者で行い、個々の体調や症状、ペースに合わせ衣・食・睡眠等の工夫をした。また、気温や体調等を考慮しながら廊下を散歩したり、テラスに出て他児と触れ合ったりして気分転換を図るとともに、家庭的な雰囲気ですっきりと安心して過ごせるよう心がけた。
- ・咳や鼻水がみられる時などには加湿器を使用したり、午睡時に上半身を高くしたりして症状による苦痛の軽減を図った。また、保護者への症状に合わせたアドバイス等を行なった。
- ・病後児利用時の不安を少しでも軽減できるように、積極的にクラスに入り普段から子どもたちと触れ合う機会を作り、身近な人という認識を持ってもらう(＝慣れてもらう)ように配慮した。
- ・利用者が少しでも増えるように、卒園児や園外児の病後児利用者を対象に次年度用登録票を配布(郵送)した。
- ・体調を崩しやすい低月齢児の保護者に病後児保育の早めの利用を促し、病後の登園時の利用へとつなげた。
- ・病後児保育事業改善分(利用児童が少ない日等において、感染症流行状況等の情報提供や巡回支援を実施する場合に加算される改善分)として、大網市内の認可保育園5園に協力をお願いして自園を含む6園の週間感染症発生状況を情報収集し、それをまとめ5園と情報共有した。また看護師不在の2園に対し、他園用のほけんだよりを作成・提供した。

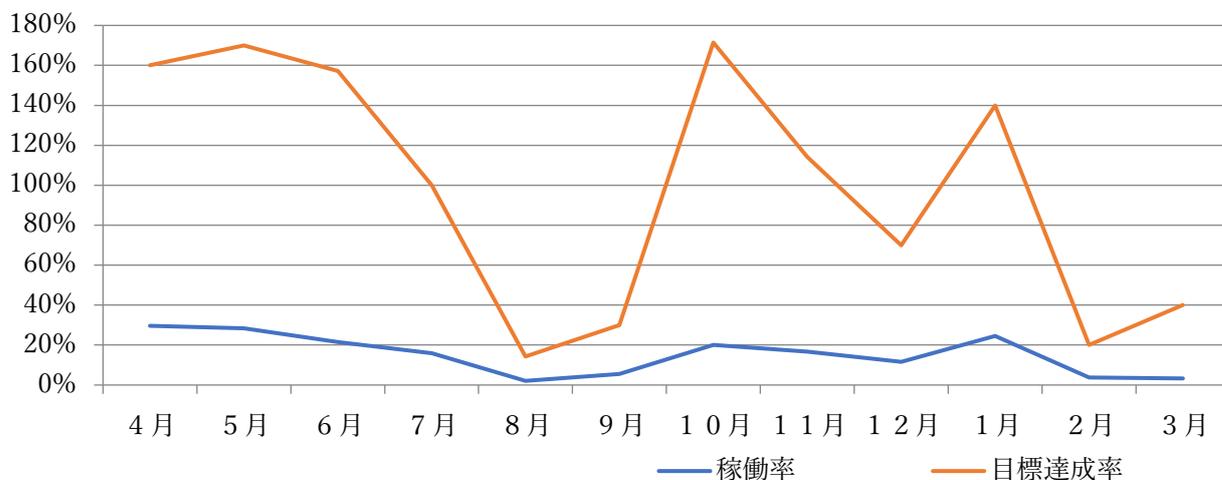
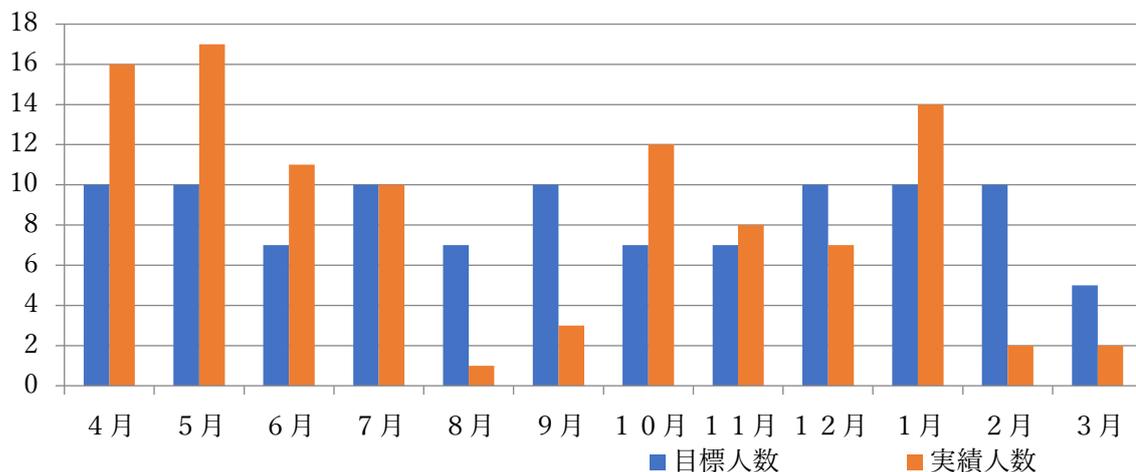
反省

- ・コロナ禍以降初めて年間利用者数が100名を超え、目標達成することができた。
- ・次年度も利用者が増えるよう、保護者へ病後児保育を周知していきたいと思う。また以前鼻水吸引を在園児に行っていたが、必要に応じて病後児利用時に鼻水吸引を再開するなど、病後児保育を利用することで得る特別な対応等を考えていきたいと思う。
- ・病後児保育事業改善分を6月から実施したが、市からの補助金アップに貢献できたと同時に

他園との連携をとることにも繋がったと思うので、来年度以降も無理のない程度に続けていきたいと思う。

令和6年度 病後児保育事業年間稼働計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|-----|------|-----|-----|------|
| 目標人数 | 10 | 10 | 7 | 10 | 7 | 10 | 7 | 7 | 10 | 10 | 10 | 5 | 103 |
| 稼働日数(日) | 18 | 20 | 17 | 21 | 16 | 18 | 20 | 16 | 20 | 19 | 18 | 20 | 223 |
| 定員(人) | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 実績人数 | 16 | 17 | 11 | 10 | 1 | 3 | 12 | 8 | 7 | 14 | 2 | 2 | 103 |
| 稼働率 | 30% | 28% | 22% | 16% | 2% | 6% | 20% | 17% | 12% | 25% | 4% | 3% | 15% |
| 目標達成率 | 160% | 170% | 157% | 100% | 14% | 30% | 171% | 114% | 70% | 140% | 20% | 40% | 100% |



栄養課事業報告

【基本方針】

- ・日々提供している給食を基に季節、食材、マナー等の日常的食育活動を充実させていく。
- ・食に関する体験を実施し、楽しさや興味を引き出さず
- ・家庭、担任職員と連携し、乳幼児期で養うと良いとされる食生活習慣を定着出来るよう、サポートする。

【年間事業目標】

- ・年齢別また、個々の成長や発達に合わせて子どもが自発的に食への興味や関心が持てるような働きかけを行う。

実績報告

1. 給食管理については、月に1度の給食会議を通して各年齢別の情報交換、相談を行った。保育士から食育活動についてどの様に取り組んでいけば良いのかという議題を多く取り上げた。子どもの年齢と成長に合った活動をするには何が適切なのかを、クラス内で話し合う機会につなぐことが出来た。
2. 給食栄養量を満たすことを目的に計画的に献立作成をし、栄養計算と年齢別給与に努め、さらに毎回園児の残食調査を実施し、嗜好や盛り付けを研究しながら残食防止を図った。
3. 給食担当者の健康管理として、検便、毎日の健康チェックを徹底させると共に、食品の取り扱い、施設調理器具の消毒等の衛生に万全を期し『食中毒感染症』の発生防止に努めた。
4. 食育については、年齢に沿った計画のもと、日々の日常の中で食に興味関心が持てるような食事マナーを中心に、イベント企画で職員が子ども達の目の前でおやつ作りをしたり、子どもの成長、興味に合ったクッキング活動を行った。また、5歳児は給食の中に含まれる食材でどの様な栄養が含まれているか学び、栄養バランスを考えながら5日間分の献立作を行った。

反省

1. 今年度も昨年度と同じく、土曜日の弁当でのアレルギー等の誤飲、誤食事故が1件報告された。状況としては、土曜日ということで給食職員は不在、通常保育の流れとは異なっていたこともあったが、昨年度、同様の事故が発生した際、再度マニュアルを作成し直し、職員への注意喚起を行った。結果的には職員への意識と理解が徹底されていなかったため、誰にでもわかる様な可視化をしていく必要がある。
2. 今年度より4、5歳児は自分が食べられる量だけ調理器具を使用しながら、盛り付け配膳を行う様にした。最初は多くよそり過ぎたり、また苦手なものはよそうのを嫌がる子もいたが、職員が声をかけて適量を自分で盛り付けすることが出来る様になった。効果としては残債量が減り、また、完食出来ることで給食の時間を楽しく過ごせる様になれた。
3. 食育活動についてはどのクラスも積極的に取り入れようという様子が感じられた。わかりやすい活動としては、食イベントに近い計画が多く見られた。これらの活動は食に興味関心が持てるき

かけになるが、これかから先の食習慣を形成していく時期としては、日々の食事の中で培われる活動を中心に実施できるようにしていく必要がある。

人材資質向上マネジメント執行報告

【基本方針】

・人事考課、個人目標シートに基づきながら各職員が働きやすい環境作りについて話し合う機会を設定し実践していく。

【年間活動目標】

- ・必要とする職員の配置基準が満たされる様、人員確保を行う。
- ・職員が目標を持って日々勤務出来る様な環境を作る。

事業報告

① 求人関係

- ・各学校に適正時期に就活用の書類を郵送した。また、近年、明德短期大学生からの新規採用者が続いているので、現在在籍している明德短期大学とOG職員が3名在籍している植草学園短期大学の学生向けパンフレットを最新版に作成し直し、各学校の求人募集要項の書式に合わせてPCで入力や手書きで作成を行った。
- ・園見学や就職希望者の学生からの問い合わせに対するの応答、案内面談日時の設定、採用試験の結果郵送した。
- ・実習生から入職希望へ繋がる様に、新たに実習生メンター制度を導入した。
- ・新入職員向けオリエンテーションの計画を立てて実施した。

② 人事考課表について

職員の質の向上、適正な配置(キャリアアップを含む)を目標とした人事考課表の書類管理を行った。

③ 人員配置について

- ・令和7年度新規雇用は以下の通り。
(新卒者雇用4名)
- ・令和7年度産休、育休習得予定者は以下の通り。
(正職2名)
- ・令和6年度途中入職者は以下の通り。
(パート2名)
- ・令和6年度退職は以下の通り
(正職1名、パート1名、派遣職員1名)
- ・令和6年度途中退職者は以下の通り。
(パート1名、派遣職員2名)
- ・令和6年度産休、育休拾得者は以下の通り。
(正職5名)

反省

- ・今年度は、産休育休取得者による休職者が重なったので、紹介業者を利用したり、派遣職員の勤務体制をその都度変更せざる得ない状況になってしまった。
- ・新卒者採用活動に関しては、毎年明德短期大学から1名採用することが出来ており、令和6年度も継続することが出来た。また、新たに、実習生のメンター制度を実施し、環境作りを工夫したため、実習生2名を新規採用に繋げることが出来た。
- ・働き方改革では、職員に最低30分は保育室から離れて自分の時間をとる様に推進した。クラスによりばらつきがあり、勤続年数が長い職員が保育室内で休憩をとると、勤続年数の短い職員も同じ様な状況になってしまう傾向があると感じた。勤続年数が短い職員ほどクラスから離れて、精神的にもリフレッシュする必要があるので、全職員が保育室以外で休憩をとる様に促していく必要がある。
- ・給食室職員が怪我により7か月弱、1名欠員が続いてしまった。限られた人数で出来る献立作成を行っていたが、疲労が蓄積し、今まで急遽体調不良で休むことが少なかった職員が休みがちになってしまった。また、ハローワーク、ホームページ、業者、園舎内外に張り出しなどを行ったが決まるまでに時間を要した。以前は募集をすると近日中に決まる傾向があったが、社会的にも状況が変わってきていることに注意しなければいけない。

乳児保育執行報告

活動方針

- ・乳児保育で必要な環境についての理解を深め、年齢や個々の発達に合わせた関わりを行う。
- ・自然に触れ、親しむ活動を通して子どもたちの感性を豊かにし、主体性の基礎を育む。

年間目標

- ・乳幼児期の育ちを理解し、発達に応じた関わりを丁寧に行う。
- ・愛着形成と自己肯定感を育む為、一人ひとりの欲求に共感的に応答し、関わる。
- ・子どもたちが興味・関心の持てるような環境とは何かを考え、日常の保育に活かす。
- ・保護者との信頼関係を築きながら、子どもたちが健やかに成長できるよう連携を取る。

執行報告

- ・令和5年度分の千葉県自然環境活動費補助金実績報告書を4月8日に提出する。
- ・令和5年度分の自然環境保育活動内容報告をまとめ、6月28日に千葉県健康福祉部子育て支援課に提出した。
- ・令和5年度自然環境活動補助金が7万5千円、交付される。
- ・10月の園内研修にて、今年度4～8月までの自然環境への取り組み、環境構成の工夫点、9月以降後期の自然環境の計画、活動を通して子どもの何を育てたいかについて考えてもらい、グループワークでの話し合いを行った。又、10月の外部研修(安全管理研修)の報告と散歩について、歩くことを積極的に計画に取り入れるよう伝えた。
- ・月案会議等での自然環境への取り組みを活発に取り入れるよう伝えた。
- ・2月園内研修にて、9月～1月までの自然環境保育の実践例についてグループワークを行う。子どもの活動内容・姿、狙い、保育者の思い、経験した子どもの姿、課題・疑問などについての意

見や考えを出し合った。園全体でのちば・うみやま保育への取り組みについて職員間で意識を高めていった。

- ・散歩マニュアルについての見直しの為、各クラスからの意見を出してもらった。
- ・園庭の使い方・ルールについて各クラスから出た内容を乳幼児保育、防災事故防止リーダーで3月に話し合いを行った。
- ・令和6年度の千葉県自然環境活動費補助金の実績報告書を作成し、4月に提出した。

反省

- ・園内研修を通して、ちばうみやま保育についての活動内容の実践例でのグループワークが充実し、意見交換が活発に行われたことで、自然環境保育への理解・実践への取り組みが促進されるような機会になった。
- ・散歩マップについては、幼児教育専門リーダーとの連携の中で進めていたが、他部署との連携も取りながら進めたほうが良かった。引き続き、マップへの情報を入れながら園ぜんたいでの情報共有を行い、活用できるようにしていく。
- ・各年齢や育ちに合わせた行事への取り組みを促し、都度での反省や振り返りをし、次の活動へ活かしていけるようにした。

幼児教育執行報告

活動方針

- ・幼児期の育ちを理解し、発達に応じた関わりを丁寧に行う。
- ・地域、社会との関わりを持ち自分自身の役割や地域に親しみを持てるようにする。
- ・子どもたちが興味・関心の持てるような環境とは何かを考え、日常の保育に活かす。
- ・地域と家庭を繋ぎ、子どもたちが健やかに成長できるよう連携を取る。

年間目標

- ・幼児期で必要な環境についての理解、10の姿を取り入れていく。
- ・自然に触れる体験を通し、四季の変化を感じ、好奇心や探求心を高め主体的に活動する。
- ・遊びの中で友だちと関わり、ルールの共有・協力し築き上げる楽しさや面白さを知れるようにする。

執行報告

- ・乳児保育と共に自然環境保育について園内研修を2回(10月・2月)に実施した。各学年のこれまで取り組んできた内容を報告し、少人数で話し合いをした。
園全体でのちば・うみやま保育への取り組みについて職員間で意識を高めていった。
- ・日本ならではの行事やイベントなど掲示や飾りをし、子どもたちだけでなく保護者とともに雰囲気味わえるようにした。
- ・ちば・うみやま保育について保護者の方にも周知してもらう為に園での取り組みのポスターを作成し掲示した。
また、集会の計画から運営をして年齢にあった行事の意味や参加方法で楽しめるようにした。
- ・プランター栽培を取り組む中での反省を活かし、ガーデンフレームの畑を設置し野菜の栽培に取り組んだ。栽培や管理の観点から増設し来年度に繋げた。
- ・園庭の使い方・ルールについて各クラスから出た内容を乳幼児保育、防災事故防止リーダーで3月に話し合いを行った。

・令和6年度の千葉県自然環境活動費補助金の実績報告書を作成し、4月に提出した。

反省

- ・ちばうみやま保育認証園としての職員の意識向上するために園内研修を通して取り組み中でおこない、日々の保育に活かせるよう発信することができた。
- ・行事や日本ならではの習慣など各クラスで年齢に応じた取り組みの発信や、園全体で集まり集いなどの計画、運営をして子どもたちが楽しみながら参加できるようにした。
- ・園内研修では職員個々の思いや意見など引き出せる機会がつかることができ、ちばうみやま保育についてもより一層理解を深められた。

障害児保育執行報告

活動方針

子どもたち一人ひとりに対して同等に最善の利益を保証するために、「生きる権利」「守られる権利」「育つ権利」「参加する権利」の観点から、個々に生じた課題に関して積極的に向き合っていく。多様化する子どもの姿への理解を深めるため、それぞれが知識を身に付け、個々に合った支援を行っていく。

年間目標

障害、病歴、気になる子について理解を深め園全体で支援の手立てを考えていく。

執行報告

- ・ケース会議を行い、障害、病歴、気になる子について職員間で情報を共有した。それぞれが子どもの実態を把握しながら保育に臨んだ。
- ・保健師が来園した際にクラスから聞き取りを行った情報を共有し、意見交換を行った。新しい情報を各クラスに報告した。
- ・園内研修の取り組みとして気になる子への配慮についてグループでのディスカッションを行った。資料を作成し、保育者間で障害のある子や気になる子についての知識を共有できるようにした。
- ・市のことばの相談についての資料を配信したり、気になる子に関しては個別にアプローチしたりしてもらえるように呼び掛けた。

反省

月に1回会議にて障がいとは何か、また療育施設を通うためにどのようなことが必要なのか等発信することができ、また各クラスの気になる子どもの様子や対応の仕方、困っていることなど全体で考え、会議に出席している職員が話しやすい環境の中意見交換ができた。

研修で得たことを会議で発信することもできた。

療育施設職員が各クラスまで送迎してもらうようになり、担任と連携が取れたことは良かった。年に1回は療育施設職員と話し合う時間を設けたことで、情報共有も行えた。各クラス該当児の保護者とも連携が取れているように感じた。今後も定期的な情報交換をしていきたい。

保護者支援子育て支援・地域交流執行報告

活動方針

- ・児童虐待防止 : 子どもの最善の利益を守る。

(日々の保育を振り返り、園内の子どもの利益を守る。)

- ・保護者支援子育て支援:専門的な知識を活かし家庭の環境を整える
(各家庭の状況についての共通理解を図る。)

年間目標

- ・会議やレジェメを通し、園での虐待防止を高めていく。
- ・保護者と子どもの安定した関係を目指し各家庭に寄り添った支援を考えていく。

執行報告

- 園内研修を通し虐待に繋がる言葉かけや関わり方を中心にグループワークをすることで自分たちの保育を見直すことが出来た。千葉県の虐待相談機関を周知した。
- 保護者支援の研修では一人ひとりに、今までの保護者支援であった困った事を話すことで、自分に置き換えてどう対応するか、や他の職員の意見を参考にして今後の保護者支援に繋げるような話し合いを行った。
- 各クラスの保護者支援について、各クラス会議を中心に話し合いを行った。
- おたよりや日々の保育の写真を掲示することで保護者へ子ども達の成長や家庭での様子を聞きかけ作りが出来た。
- オレンジリボン(虐待防止)を強化月間にして各クラスやポスターを使用し虐待に繋がる場合の連絡先などを保護者へも呼びかけを行った。

反省

- ・研修や朝礼ノートを通して支援や虐待の呼びかけをし、月案会議で支援が必要な保護者の周知は出来たが、係が中心となり進めることが難しかった。
- ファシリテーターとしての役割は自分達も理解と実践が難しく資料を読む事しかできずに終わってしまった。

防災・事故防止執行報告

活動方針

〈防災〉

- ・有事に備えた計画を立て実践する
- ・訓練を通して有事の際に命を守るための的確な対応を学ぶ
- ・子どもたちへ有事の際の対応を簡単に伝えていく

〈事故防止〉

- ・子どもの心身の安全な保育環境を確保する。
(危険箇所を発見し、環境の見直しをする事で安全な環境を提供する。)

年間目標

〈防災〉

- ・訓練に参加し、職員全体で反省や改善を話し合い共通理解を深める。
- ・園児自身が安全の為訓練を理解し自ら進んで参加できるようにする。

〈事故防止〉

- ・園内研修を通し、事故・虐待に対する意識を高めていく。
- ・園で起こりうる事故・虐待を防止する策の見直しと実施。

執行報告

〈防災〉

- ・月に一度、避難訓練の実施

- ・引き渡し訓練実施
- ・月に一度、避難リュックの中身の点検の実施
- ・棚の上の整理の呼び掛け
- ・防災頭巾の貸し出しの起案書の提出。防災頭巾の発注
- ・避難具の見直し、足りない物を購入
- ・消防立ち入り訓練実施
- ・防災研修に参加
- ・非常用トイレ購入(100回分 15年期限)

避難訓練報告

4月 非常ベルの音を聞く 5月 地震想定 第一避難所に避難 6月 不審者対応訓練
 7月 火災想定 8月 大雨による水害想定 9月 引き渡し訓練 10月 地震想定
 11月 火災想定 12月 不審者対応訓練 1月 地震想定 2月 地震想定
 3月 総括 地震からの火災(事務所から火災)

〈事故防止〉

- ・ヒヤリハットの強化。
- ・園内掲示物修正。
- ・園内研修
- ・乳児棟玄関 カメラ設置

反省

- ・状況に応じて年間計画で立てていた内容を変更し取り組む事ができた。
- 大雨による水害はここ近年問題視されているので、年間計画で取り入れた方がよいと思った。
- 地震や火災だけでなく、様々な場面を想定した不審者想定を行う事ができた。
- ・研修で学んだことを会議で事ができた。
- ・ヒヤリハットについて園内研修で議題にし、“ヒヤリハットとは”を伝え、各クラス記入し提出してもらったが、時間が経つにつれ浸透や意識が薄くなってきてしまうのが現状であり、こまめな声掛けがもっと必要だったと感じた。
- ・靴の紛失からカメラを設置したことで、園児の私物の紛失がなくなった。幼児棟カメラは起動しないので新たに購入や対策が必要である。

保育実践マネジメント執行報告

活動方針

- ・一人ひとりの職員が主体的に学び、個の力を発揮・活かしあいチームで保育を行う。

年間目標

- ・一人ひとりの職員の資質向上及び職員全体の専門性の向上

執行報告

- ◆園の理念や方針を末端まで伝えるべく上司の助言を聞きながら連携を取りつつ組織的に伝えた。
- ◆職員が主体的に園内研修・外部研修・勉強会等に参加できるよう計画し、開催した。
 (山武支会研修、園内研修一年10回程度、自主勉強会等)
 山武支会研修で得た知識は園内研修で取り上げ職員間で共有した。
- ◆キャリアアップ研修で得た知識を職員間で共有できるようにした。
 (乳児保育、幼児保育、障害児保育、食育アレルギー対応、保健衛生、安全対策、

保護者支援、子育て支援、マネジメント等)

- ◆各分野別リーダーと定期的に意見交換を行い、助言、指導を行った。
- ◆マネジメントを行い、職員の心身の健康や管理を行った。
 - ・職員のシフト管理、配置を行った。
 - ・ICT化を促進させている。
- ◆保護者支援について
 - クラス便り、クラスでの活動を伝える方法(ドキュメンテーション)等への指導や助言を行い、保育内容や子どもの姿を保護者に知ってもらえるようにする。又、ICT促進に繋げた。
- ◆遊びの環境について
 - 物的・人的・自然・社会について各部署との連携を取りながら振り返り、改善を行った。

反省

- ・令和6年度はキャリアアップ研修に多くの職員が参加できたため、一人ひとりの資質向上や専門性の向上へつながった。
- ・自然環境保育についての園内研修を計画、実行し、担当職員だけでなく、園全体での共通理解が図れた。
- ・実習生は、日程調整を行い可能な限り多くの方を受け入れた。その中で、就職に繋がった方もいた。
- ・ICT化促進として、クラスだよりや手紙は、保育士バンクを使っての配信が定着し、職員もスムーズに配信が行なえるようになった。また、幼児組では引き続き毎日連絡帳機能を利用し、保育の様子を知らせた。時には写真の添付もし、様子がわかりやすいように努めた。
- ・配信するクラスだよりやお知らせ、日々の子どもの様子などは、わかりやすく伝えられるよう助言を行った。

保健衛生マネジメント執行報告

活動方針

- ・自らの体や健康に関心を持てるように、また健康で安全な生活を作り出す力を身につけていくように、年齢に合わせた保健教育・指導を計画し実施する。
- ・職員が保健衛生・健康安全対策に関する知識を得たり、問題提起できるような指導や働きかけを行う。

年間目標

- ・園児や職員が心身共に健康で安全に過ごせるよう、一人ひとりの発育・発達状態や健康状態を配慮しながら保健衛生活動を行う。
- ・職員の保健衛生・健康安全対策に対する意識や知識の定着・向上を図る。

執行報告

- ・保健衛生の会議がなくなり保健に関する話し合いを持つ機会がなくなりましたが、月案会議にて毎月の保健目標や前月の反省等を共有し、クラス担任と相談して保健指導を行なった。(歯の衛生、手洗い、フッ化物洗口、目についての話)
- ・年2回の歯みがき教室の実施。
- ・歯科検診と内科健診を年2回実施し、園で受けられなかった園児に対し嘱託医での個別健診

を促した。また健診結果を保護者に知らせ、異常などの指摘があった園児に病院受診を勧めた。

- ・子どもたちの健康状態や欠席者の情報、毎日の欠席者人数等をクラス担任と連携をとり、把握・記録・情報共有することで、サーベイランスに活用。また、体調不良児や病欠者の保護者へ積極的に声かけし、状態把握や助言を行なった。
- ・全園児の出生時からの身体測定値の入力、及び成長曲線を作成し、それを元に発育異常等の疑いや傾向のある園児に関して担任と情報共有し保護者へ助言。栄養士にも情報共有。卒園児へ、出生時から身長の伸びた分と同じ長さのリボンを用意し、成長曲線をプリントした用紙に結び記念に渡した。
- ・感染症の流行の兆しがみられた際には、保護者へのお知らせや注意喚起を行ったり、保健所への状況報告等の連携を図った。
- ・職員のストレスチェックと疲労蓄積度自己診断チェック、健康診断及びインフルエンザ予防接種を行った。
- ・大網白里市内保育園看護師連絡会を主催し、情報交換を行った。

反省

- ・手洗い指導に関しては3歳児対して汚れをきれいに落とすことができているか可視化したり、手洗いがしっかりできたらごほうびシールを貼るなどの工夫をした。手洗い時に様子を見に行っている間は子ども達もしっかりできていたが、時間の経過や年度変わりできなくなっていたように感じた。手洗いは感染予防の基本なので0歳児からの手洗いや日々の手洗いの様子を見に行くなど、手洗いの習慣がしっかりつくような方法を他の職員と一緒に考えていきたいと思う。
- ・職員のストレスチェックと疲労蓄積度自己診断チェックを実施したが、他のマネージメントリーダーとも情報共有し、必要に応じてフォロー等していけるように連携をとっていきたいと思う。
- ・月案会議で保健に関して情報を共有したり、その時々で配慮することなどを発信したりすることができたと思うが、来年度はより発信していきたいと思う。
- ・他園の看護師と情報を交換することで、他園で行っている保健活動を知ることができたりしたので、来年度以降も定期的に情報交換の場を設けていきたいと思う。

年間反省

今年度は、1年を通して何かしらの感染症が発生していた。流行的に罹患数が伸びる時期が過ぎても根強く発症者が途絶えない感染症として伝染病性紅斑(りんご病)があがった。症状が重くなってしまいうも少なくなく、頬の斑点だけでなく身体全体に発疹がでてしまう症状であった。

最も罹患数が多かった感染症は手足口病であり、伝染病性紅斑同様なかなか感染者数が減らなかった。また、時期をずらして2回3回と罹る子どもも多かった。その他では胃腸炎も流行し、年齢関係なく下痢嘔吐の症状が見られた。集団生活というところでは、様々な感染症が蔓延しやすい状況は否めない部分があるができるだけ感染拡大の防止として手洗いうがいの徹底やおむつ替え、鼻汁処理時のア

ルコール消毒、換気、湿度調節、玩具消毒などの感染症対策に加え、熱発児の隔離、子ども達の健康管理、職員の健康管理など体調の変化に敏感に察知、対応に努めた。

今年度より、様々な会議や園内研修の内容、役割を見直し変更した。会議においては回数よりも質の向上に努め、週案会議から月案会議とし月1回の会議となったが各クラスの代表者が自分のクラスの保育計画を意図と共に発表しそれに対して意見交換を行うという形にした。それにより他クラス職員の考えや計画、子どもの様子等を知る事が出来、みどりが丘保育園全体で171名の子ども達を保育していく意識を持ち始めてきている。また、月1回クラス会議を設けた。保育室とは違う別室にて会議を行う事でより効率的により充実した会議が行われた。

園内研修ではキャリアアップ研修に基づいた専門分野に沿ってプログラムを組み立てていった。ディスカッションを中心にした研修に加え、ロールプレイ式にし相手の立場に立った視点や寄り添い方を捉えやすいようにした。書面のみよりも実際会話し体を動かしながら行った事で課題に対してわかりやすく、意見交換が以前よりも活発であった。

特別保育事業の稼働率は一時保育 89.2%、病後児保育 100%、子育て支援センター119.8%であった。昨年度は3事業所とも稼働率 100%に満たしていなかった中、病後児保育と子育て支援センターの2事業所が目標としている人数に達した。その中でも子育て支援センターは昨年度の近隣に大きなセンターが開設され利用者がそちらへ流れてしまった現実を受け止め、当園の支援センターを利用してもらえるにはどうしたらよいか向き合ってきた事が結果として表れたのではないだろうか。イベント数も増やし、わらべうたや簡単な親子リズム遊びの講師をボランティアに迎えたり、近隣の自治会館を借りてカフェテリアを行ったりと賑やかな時間を提供していった。反面、限られた場所でゆったりと保護者が安心して過ごしたり、育児相談をしやすい空間も用意する日も設けたりとメリハリをつけて保護者のニーズに合わせて取り組んでいった結果だったと感じる。

また、子育て支援センターの利用者向けに予約取得方法としてLINEを導入した。今までの電話予約よりも手軽に行えるようになり保護者負担が軽減された。イベント情報も発信しやすくなったり、イベント後の様子を参加者に送る事ができ、保護者には好評である。

昨年度に引き続き、ちば・うみやま保育認定園として自然を活かした保育を日頃から取り入れていくため、園内研修、外部研修を積極的に行い情報共有や新たな知識として取り入れていった。植物や生き物、食物など一つの素材を年間かけて繋がった保育をしていくためにどうすればよいか計画性を持ち、単発で終わらないように心がけていった。しかしまだ課題は多く、取り組んではいらぬものの自然消滅してしまったり子どもの興味が発展しなかったりする事もあったので実践を繰り返し、振り返りから一つ一つ課題を消化していく。

昨年度から課題としている働き方改革では劇的な変化は見られなかったものの、少しずつ今できる事から取り組んでいった。ICTを活用した書類作成も新しいシステムの導入のためやり方を覚えている段階なので効率化にはこれから期待したい。

R6年度 保育園における自己点検・自己評価

| | | 理事長 | 園長 | 主任 | 主任 | 副主任 | 事務 |
|--------------------|--|-----|----|----|---|---|----|
| ◎保育の計画の編成と実施に関する評価 | | | | | | | |
| 項目 | 内容 | 評価 | | | | 意見・改善策 | |
| | | A | B | C | D | | |
| 保育目標について | (1) 保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。 | ○ | | | | ・定期的な振り返りや全体への投げかけの不足により日頃からの意識付けに課題が残る。 | |
| | (2) 目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。 | ○ | | | | | |
| | (3) 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。 | | ○ | | | | |
| | (4) 目標は、前年度の反省を生かしているか。 | ○ | | | | | |
| | (5) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。 | | | ○ | | | |
| 保育について | (1) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。 | ○ | | | | | |
| | (2) 保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。 | | ○ | | | | |
| | (3) 環境の構成を意識した保育や課程を常に工夫しているか。 | | ○ | | | | |
| | (4) 素材・用具を適切に活用しているか。 | ○ | | | | | |
| | (5) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。 | | ○ | | | | |
| 日時程 | (1) 1日の流れ(デイリープログラム等)は、現行でよいか。 | | ○ | | | | |
| 行事について | (1) 行事の種類や実施回数は適切か。 | | ○ | | | ・各々で行事に対するねらいの認識にズレが生じていたため、話し合い来年度に向けて統一したものをあげた | |
| | (2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。 | | | ○ | | | |
| | (3) 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。 | | ○ | | | | |
| | (4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。 | | | ○ | | | |
| | (5) 保護者の願いや意見を取り入れているか。 | | | ○ | | | |
| | | | | | ・食育に関してのねらいや意図、計画性に大きな課題が見られた。会議等で見直し、新たな様式等を用いて取り組んだ。 ・保護者の思いにも寄り添いつつ、園として保育性への理解も丁寧に伝えていく。 | | |

※A、B、C、Dの4段階評価。 A:たいへんよい B:よい C:一部検討を要する D:改善を要する

◎保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

| 項目 | 内容 | 評価 | | | | 意見・改善策 | |
|-------------------------------------|-----------|---|-------------------------------|---|---|--------|---|
| | | A | B | C | D | | |
| 経営・組織 | 分掌・体制 | (1)能率的、合理的な運営組織になっているか。 | | ○ | | | ・職員一人ひとりが明確に把握していくように可視化できる工夫は今後の課題である。 |
| | | (2)職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。 | | | ○ | | |
| | | (3)職員の配置は適材・適所か。 | | ○ | | | |
| | | (4)係や仕事の分担・割り当ては適切か。 | | ○ | | | |
| | 運営 | (1)各種会議を適切かつ効率的に進めているか。 | | ○ | | | ・保育内容中心の会議にしたことにより意識が変わってきた。より充実した会議にしてい。 |
| | | (2)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか | | ○ | | | |
| | | (3)打合せ回数、時間、内容は適切か。 | | | ○ | | ・見直し後、改善にむけて取り組んできたがまだ改善の余地は多いにあると感じる。 |
| | 年齢別・クラス経営 | (1)年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。 | | ○ | | | ・見直しをし作成しなおした。それを全員が理解するにはまだ不十分であった。 ・行事を通して異年齢交流は計画的であったが年間を通しての交流は消極的であった。 ・職員一人ひとりが連携の重要性を持ち声掛けの積極性が課題である。 |
| | | (2)年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。 | | ○ | | | |
| | | (3)年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。 | | | ○ | | |
| | | (4)同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているのか。 | | | ○ | | |
| | | (5)意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。 | | | ○ | | |
| | | (6)評価、資料(諸記録)を集積しているか。 | | ○ | | | |
| | 保健・安全指導 | (1)年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。 | ○ | | | | ・市内保育園との情報交換などは増えてきたものの地域社会との連携は不十分である。 |
| | | (2)避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。 | ○ | | | | |
| | | (3)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。 | | ○ | | | |
| | | (4)乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。 | | ○ | | | |
| | 研究・研修 | 園内研究・研修 | (1)研修主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。 | ○ | | | 職員の自主性を強化し、各専門リーダー中心に組み立てて行っていった。 ・研修のやり方を改め、意見交換しやすいものに改善していった。 |
| (2)園内研修の計画・運営は適切か。 | | | | ○ | | | |
| (3)研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。 | | | | ○ | | | |
| (4)研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。 | | | | ○ | | | |
| 園外研修 | | (1)各種研究会、研修会、講習会への参加姿勢の充実を図っているか。 | ○ | | | | |
| | | (2)各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。 | | ○ | | | |

| 項目 | 内容 | 評価 | | | | 意見・改善策 |
|------------|----------------------------------|---|---|---|---|------------------------------------|
| | | A | B | C | D | |
| 情報について | (1) 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。 | ○ | | | | |
| | (2) 公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。 | ○ | | | | |
| | (3) 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。 | | ○ | | | |
| 施設・設備 | (1) 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。 | | ○ | | | ・点検表を見直し、新しくしたものを使用して定期点検を行うようにした。 |
| | (2) 遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。 | ○ | | | | 様々なシチュエーションを想定して不審者対応訓練を年2回行っている。 |
| | (3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。 | | ○ | | | |
| | (4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。 | | ○ | | | |
| 出納・経理 | (1) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか。 | | ○ | | | |
| 開かれた保育園づくり | 施設間交流・連携 | (1) 他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。 | | ○ | | ・交流を持つ園とより交流する機会を増やす計画を立てている。 |
| | | (2) 他施設等の児童と触れ合う中で、乳幼児が充実感を味わえる配慮や援助・支援を行っているか。 | | ○ | | |
| | | (3) 指導者間で、合同研修等にて互いの保育・教育に対するの共通理解を図っているか。 | | ○ | | |
| | | (4) 参観や保育・授業に参加するなどして、幼稚園小学校の教育を理解しているか。 | | ○ | | |
| | | (5) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。 | | ○ | | |
| | 地域交流・連携 | (1) 参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか。 | | | ○ | ・時間や人数の制限は必要であるが臨機応変に対応していく。 |
| | | (2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。 | | ○ | | |
| | | (3) (乳) 幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。 | | ○ | | |
| | | (4) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。 | | ○ | | |